

## 式辞

新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るう中、学校においても全国規模での臨時休校という前代未聞の状況となるなど、社会全体に様々な不安が生じている状況ではありますが、本校においては、その内容や規模を縮小したとは言え、こうやって卒業生の皆さんに三年間の学びの証である卒業証書を手渡せる場が設けられたことを、率直に喜びたいと思います。

実は、本日の卒業式に向け、私としては二月の中旬には式辞を書き上げていました。しかしその時とは状況が一変する中、皆さんにどのようなことを話すべきか、正直迷いに迷いました。そのとき、改めて人類のこれまでの歩みを顧みるに、人類はこれまでも様々な危機に直面してきました。疫病、戦争、天災・・・しかし、どのような危機に対しても、最終的には人類はその危機を乗り越え、そして今日まで発展を続けてきました。現在の状況が人類にとっての大きな危機であることは間違いありませんが、しかし必ず人類は、叡智と勇気を結集し、この危機を乗り越えるに違いない。その先に広がるのは、希望に満ちた世界であり、その世界の主人公こそ、今日卒業していく皆さんである、そう確信し、以下の思いを伝えます。

皆さんは果たして、今日、どこから、そして何から卒業するのでしょうか。武岡台高校から、という当然の答えはここでは封印し、そのことを少し哲学的に考えてみたいと思います。

第一に、保護者の方々、つまり、お父さん・お母さんの庇護の下からの卒業であるということがあげられます。皆さんは皆さんがまだ赤ん坊の頃、風邪をひいて鼻水が出て呼吸に苦勞して泣いている時、その鼻水をお父さん・お母さんが口を当てて吸い出し、皆さんを楽にしてあげていたという事実を多分知らないでしょう。また、精いっぱい愛情をかけているにもかかわらず、皆さんから発せられる冷たい言葉や反応、つまり反抗期においても、それが我が子の成長の証であると信じ、じっと耐えてくださっていた、とてつもない忍耐があったということも、ほとんど考えたことはないでしょう。しかし、明日から皆さんは、それがどれだけ崇高で偉大で、そしてかけがえのないものであったかということに、いやでも気づくはずです。明日から歩く道が進学にせよ就職にせよ、生きていくうえで皆さんが明日から背負いこむ責任は膨大に増加します。それを今まで肩代わりしてくれていたお父さん・お母さんに対し、今日はまず、「ありがとう」としっかりと感謝し、そして明日からの自分の決意と覚悟をしっかりと語ってください。それが今できる最高の恩返しになるはずです。

第二に、「学校」という限定された世界からの卒業ということがあげられます。かつて歌手の尾崎豊は、それを「支配からの卒業」という言葉で表現しましたが、支配であったにせよ成長の場であったにせよ、その舞台となっていた学校は、一目で見渡せ認識できる、そんな狭い世界でした。しかし、皆さんが明日から出ていく世界は、どこまで広がっているかも、果たしてそこで何が待ち受けているのかもほとんどわからない、そんなとんでもなく広大な世界です。時は「人生百年時代」、これまでの人類が誰も経験したことのない人生のスパンの中、さらに加えて皆さんは二十二世紀まで生き抜く存在となります。どの道を進めばいいのかもわからない、まだ道すらないのかもしれない、そんな世界に歩みを進めていくのです。しかし、前に進まなければ、皆さん個人のみならず、人類の進歩はあり得ません。まさに今の状況がそれを象徴しています。何よりも地図の役割をする、世界についての正確な知識が

必要です。私たちは今日まで皆さんに、全力で、授業という形で、そのための準備をしてもらいました。この混沌とした世界、そこから、例えば自分の国の言葉に関する要素を取り出しまとめた内容が「国語」という教科であり、自然界の真実に関する要素を抜き出しまとめた内容が「理科」という教科です。すなわち、ここまで皆さんが学んできた教科の総合体こそ、「真実の世界」ということになるのです。これからはその学びの上に、自分自身で学びを重ね、自らの地図を完成させることが必要になります。同時に、絶対に一人では歩みが続けられないその厳しい世界で歩き続けるための力として、皆さんは多くの同級生や後輩たちという味方との絆を築き上げることもできました。ぜひこれからは、この狭い世界で手に入れたそれらのパワーとエネルギーを全て活用し、これからの広大な世界をしっかりと歩き続けてください。そして、誰かのためになる仕事を、ひとつでも多く成し遂げてください。そのためにも、先ほどのお父さん・お母さんに続き、今度はお世話になった先生方や仲間たちに、「ありがとう」としっかりと告げて、この学校を旅立ってください。

三番目に言えるのは、「子どもとしての自分」からの卒業ということです。「大人」とは何か、よくいろいろな場で定義されることですが、私は、「自分の価値観のみにこだわらず、他者の価値観を受け入れられる、器の大きな人」という定義が大原則であると考えています。それはあなた自身の成長を保障するだけでなく、自分の価値観だけを絶対視するがゆえに起こる不幸や悲しみを断ち切り、人類全体の幸せや喜びを導く、そんな営みの基盤となる資質です。共に生きる相手の考えや存在を大切に思う気持ちや姿勢がみんなにあれば、例えば学校において「いじめ」が発生することはまずありません。これを社会にまで大きく拡張させて考えれば、様々なハラスメントや、ひいては戦争なども解消できるはずです。そしてみんなが幸せに生きられるはずです。しかし、現実の世界では、子どもたちによるいじめだけでなく、姿形は大人と呼ばれている人々によるパワハラ、相手の人格を無視した匿名によるネットでの批判、そして国家や民族間における戦争のニュースが、ほぼ毎日私たちの耳目に飛び込んできます。そういう意味では、真の大人になりきれていない人間がまだまだたくさんいるということです。そして私たち教師も、その役目を果たし切っていないということです。これではいけない。絶対にいけない。「人」という漢字がお互いに支えあう存在を表象したものであるという過去からの教えを、今改めて現代人は認識すべきだと思います。他者を大切に考え、生きていく上でのかけがえのないパートナーとして尊敬しているからこそ、力を合わせて新たな時代に向かっていけるのです。だからこそ、私は皆さんに期待します。「共に生きなん」という言葉を座右の銘として生きていくことが許された皆さんに心から期待します。そして、この武台で学んだことによって、今年も三〇九名もの若者たちが「共に生きなん」という言葉とともに旅立つという奇跡に、今度是我自身が心の中で「ありがとう」と感謝し続けるつもりです。

では、別れの時が近づいてきました。結びに、歴史的な平和の祭典が日本で開かれるこの年に、令和最初の卒業生として旅立ち、新たな時代を、二十二世紀に向かって、それぞれの場所で力強く生きていくことを誓ってくれた皆さんに、思いを込めて、詩人・村野四郎による作品を贈ります。

おまえが入学したときは  
まるで かよわい苗木のようだった  
枝もなく そして葉もなかった  
けれどもきょう おまえを見るとき  
大きなおどろきに胸をうたれる  
おまえの幹は しっかりとし  
さしかわす知恵の枝々  
風にそよぐ やわらかい感情のしげり  
おお この美しい成長はだれがくれた  
わたしは おまえといっしょに  
このゆたかな恵みに  
心から感謝しよう  
おまえは まだまだ大きくなる  
やがて 花をさかせるだろう  
梢は 空にひろがるだろう  
そして 深々とした おまえの茂みは  
数しれない小鳥たちの  
ねぐらになるだろう  
おお そのとき  
大きな おまえの樹のかげに  
どんなに美しい夢を わたしは結ぶだろう

教師として生きる僕たちに、そして皆さんの背中を追い続けている後輩たちに、最高の思い出を与えてくれてありがとう。どのような困難が降りかかろうと、皆さんのおかげで、武台の空は今日も快晴です！

令和二年三月二日  
鹿児島県立武岡台高等学校  
校長 秋元達也